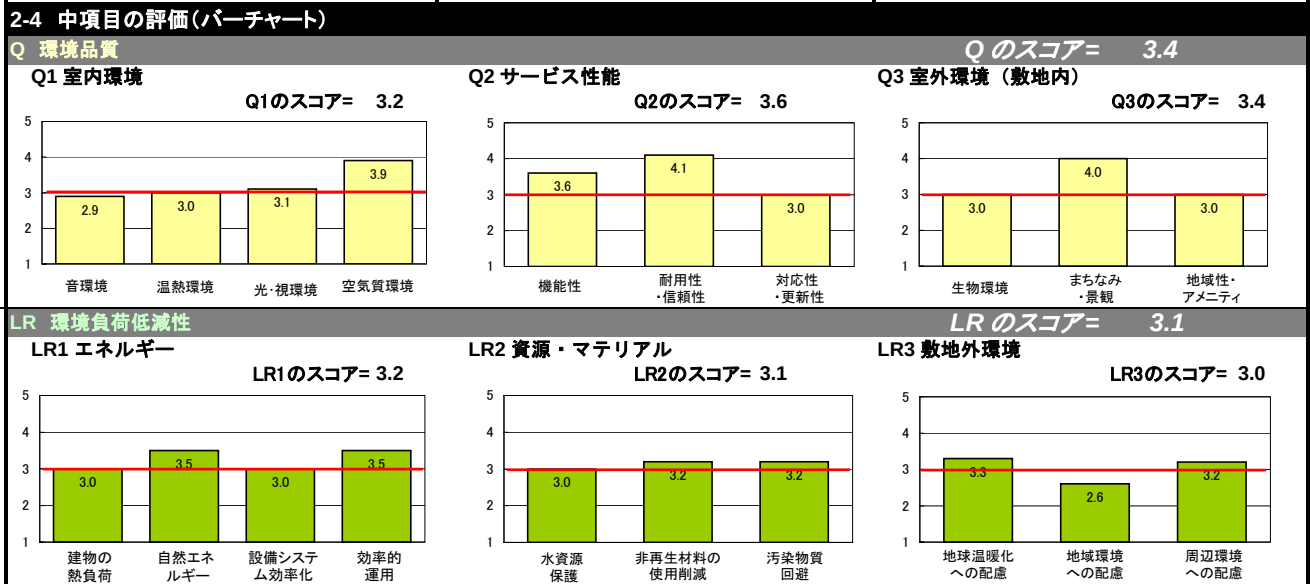
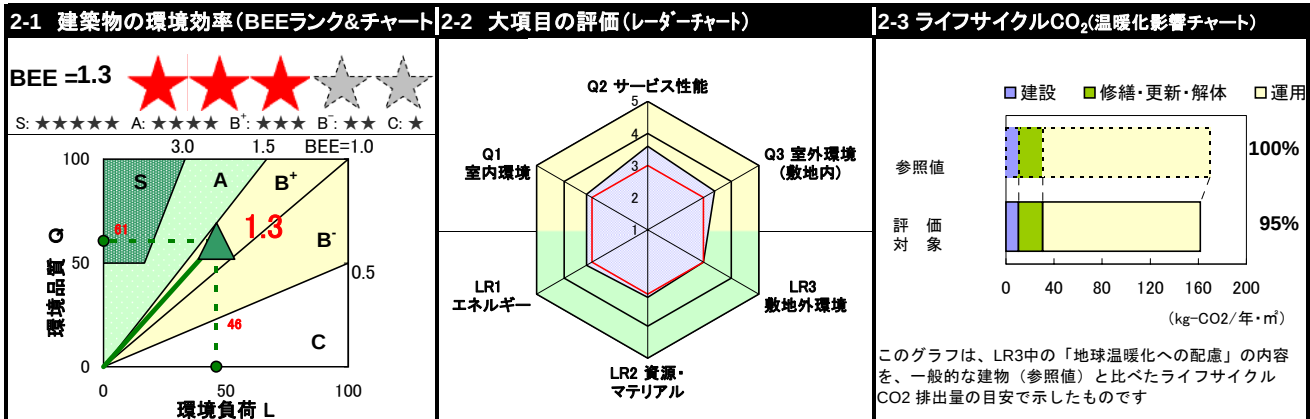


CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	京都第一赤十字病院	階数	地上5F	
建設地	京都市東山区本町15丁目794番地	構造	S造	
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	200 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年9月 予定	評価の実施日	2011年3月1日	
敷地面積	19,962 m ²	作成者	加藤秀	
建築面積	5,507 m ²	確認日	2011年3月1日	
延床面積	28,000 m ²	確認者	神先誠司	



3 設計上の配慮事項			その他
総合 京都第一赤十字病院は昭和9年から地域の保健・医療の中核施設として住民の皆様に親しまれてきました。本計画では「地域の特性」「病院としてのアメニティの創出」「地球環境への配慮」の3点をコンセプトに医療機能のさらなる拡充と病院運営の安定を目指しています。			京都市の景観政策に則り、マスタープランを見直し、高さ規制以下の建物とすると共に施設屋上部の緑化・壁面緑化を図りました。
Q1 室内環境 利用される患者さんの療養環境を中心として、スタッフの作業環境を損なわない計画としています。特に建物西面には幹線道路があるため騒音対策としてサッシの選定に配慮しています。	Q2 サービス性能 地域の中核病院として建物構造の重要度係数を1.5とするほか、診療部分に関しては非常時にも必要最低限の診療機能が維持出来るように、またメンテナンス性に配慮した計画としています。	Q3 室外環境(敷地内) 地域との連携の場として、幹線道路側に地域に開放するホスピタルパークを設けます。救急玄関と隣接しているホスピタルパークは、災害時の救護活動スペースとしても位置付けます。	
LR1 エネルギー 太陽光発電を施設屋上に設置し、エネルギー低減に活用するとともに啓蒙活動への利用も図ります。	LR2 資源・マテリアル 再生材料の利用を図るなど、環境負荷低減を図ります。	LR3 敷地外環境 周辺環境への配慮から駐車場対策を図り、敷地内への有効な導入手法とします。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい